

# 令和7年度 京都丹波人材育成アドバイザー活動方針

京都府南丹教育局

京都丹波人材育成アドバイザー

## 1 現状と課題

教職員の世代交代が進む中、当教育局管内においても若手教員の割合が高まっている。単に年齢構成だけでなく、キャリアステージ1（教職経験1年～6年）の教員の割合も高まっており、令和7年度は30%を超えている。また、深刻な教職員不足の中で、恒常的に講師人材も不足しており、教職経験のない講師も増えている。

その一方で、教育課題は高度化、複雑化しており、教職員が日常的に抱える課題は多方面にわたっている。そのような状況の中で、心身に不調をきたす教職員も増加傾向にあり、人材育成の重要度はより一層高まっている。

## 2 ねらい

「京都丹波人材育成アドバイザー」（以下「アドバイザー」という）は、学校でのOJTを中心とした人材育成の取組を支援し、教育課題に主体的に対応しようとする若手教員の育成をねらいとする。また、学校や教育委員会からの求めに応じて、若手教員の計画的な育成を支援する。

## 3 対象とする教職員

キャリアステージ1（教職経験1年～6年）、特に2・3年目の教員と、経験年数の浅い講師を対象とする。なお、校長や教育委員会の人材育成方針、各学校の実情を踏まえ、必要に応じて柔軟に対応する。

また、京都丹波の人材育成プログラムの受講者も対象とする。

## 4 活動内容

### （1）基本方針

アドバイザーは、校長と意思疎通を図りながら、自らの教職経験と研修で得た成果を生かして、学校でのOJTを支援する。

主たる機会はずぎのとおりとする。

ア 巡回訪問等での授業参観や個別面談等による、各教員に応じた支援、助言

イ 研修・講座等への参画による、主題に応じた支援、助言

ウ 校長との懇談による、人材育成についての協議

## (2) 活動内容と方法

- ア 学期に1回以上の学校巡回訪問を軸に、教育委員会や校長の要望に応じた若手教員への支援や助言、メンタリング
  - ・授業参観
  - ・個別面談
  - ・校長との懇談
  - ・特別支援教育に関する相談
- イ 校長がマネジメントする人材育成への支援
  - ・校内研修会
  - ・校内授業研究会
- ウ 各教育委員会が実施する人材育成研修・講座への参加、支援
- エ 当教育局が主催する事業や研修への参画
  - ・京都丹波の人材育成プログラム
    - ミドルリーダー育成コース
    - キャリア活用コース
    - 特別支援教育スキルアップコース
    - 講師対象教師力向上コース
  - ・計画訪問への随行
- オ 京都府総合教育センター、初任者研修等との連携
- カ その他、当教育局長が必要と認めたもの

## (3) 活動上の留意事項

- ア 教員の成長と各学校の課題解決に寄与する
- イ 指導主事ではなくアドバイザーとしての意識を持って活動する
- ウ 初任期の教員を対象とするが求めに応じて柔軟に対応する
- エ 教育委員会または校長からの求めに応じた訪問も行う
- オ 校長が推進する人材育成を支援する立場で訪問する
- カ 可能な限り計画的・継続的なアドバイスができるように努める
- キ 教員自身が主体的に研修、研究、向上に取り組むような助言に努める
- ク アドバイザー訪問が学校への負担過重とならないように配慮する

## 5 年間活動計画

- |    |  |                              |
|----|--|------------------------------|
| 4月 | ・対象者の把握<br>・各教育委員会との連携<br>・各学校への周知（管内校園長会議）              | ・活動計画の作成、日程調整<br>・新任校長への趣旨説明 |
| 5月 | 〔・巡回訪問（各学期に各校1回以上）<br>・市町主催研修講座への参加<br>・各教育委員会との連携（学期ごと） | ・計画訪問への随行                    |
| 1月 |  | ・当局主催研修講座への参画                |
| 2月 |  | ・要請訪問（随時）                    |
| 3月 | ・まとめ   |                              |